自主交渉一本で進む

水俣病互助会 支援団体受け入れも

水俣病補償問題は寺本知事が第三者機関設置に難色を示したことにより、チッソ会社、患者家庭互助会双方の出方が注目されているが、互助会は十五日午後一時から臨時総会を開き、❶自主交渉一本で進む❷会社の誠意に待つという方針を変え、場合によっては支援団体の協力も受け入れ、すわり込みも辞さないーとの強硬方針を打ち出すとともに、第四回交渉を二十日に開くよう会社に申し入れることを決めた。

この日の臨時総会には会員八十九人のうち七十三人が出席、まず山本会長から寺本知事を中心とする第三者機関設置が暗礁に乗りあげたいきさつについて報告があり、このあと今後の交渉のあり方について話し合った。この結果、まず第三者機関の望みがなくなったため今後は自主交渉一本で進むという基本方針を確認した。

ついで交渉にのぞむ態度について話し合ったが、会員の中から「補償問題が進展しない原因はいつまでも補償額を提示しない会社側に責任がある。われわれは連日すわり込みを続けてでも会社側に金額の明示を求めるべきだ」「支援団体の協力を受け入れてでも交渉を進展させ今度の交渉では補償金額の提示期間をはっきりさせるべきだ」など強硬意見が続出、結局、今度の第四回交渉の成りゆきいかんによってはこれまで互助会が断わり続けてきた支援団体の協力を受け入れるとともに、会員もすわり込むという強い方針でのぞむことになった。

なお互助会では二十日に第四回交渉を開くよう会社に申し入れるとともに、同日には会員全員が工場前に集合して待機することを決めた。